

事業報告

事業名	令和3年度第1回屋久島研究講座	事業体系	環境学習事業
期 日	令和3年8月27日（金）19:00～20:40		
場 所	オンライン（ZOOM利用）		
対象者	すべて	参加者数	66名 （内受講証明書発行41名）

（概要）

- 1 講師 広島大学大学院統合生命科学研究科 教授 坂井陽一
- 2 演題 魚たちのさまざまな暮らしとその不思議
～屋久島町口永良部島におけるこの10年の研究から～
- 3 講演要旨

広島大学 水圏資源生物学研究室では、1970年から現在まで50年間に亘り口永良部島の海で魚類の生態調査研究を行っています。島の皆様にお世話になりながら、たくさんの学生が潜水調査を進め、魚たちの面白い現象を明らかにしてきました。前回の屋久島研究講座（2010年6月）では採餌行動を中心とした研究成果を紹介しました。今回は、比較的最近の研究、特に魚類の繁殖生態や性転換に関する調査成果、について詳しく紹介します。魚の暮らしの成り立ちと生きざまを知ることで、屋久島町の海をさらに大切に感じるきっかけになればうれしく思います。

4 受講者アンケートより

- ・講座のテーマや研究成果だけでなく、広大の皆さんがどのような手法で調査されているかなど、歴史も合わせて知ることができとても良かった。
- ・口永良部の海をフィールドにした文字通り中身の深い研究で大変おもしろくあっという間に時間が過ぎました。

※ 屋久島町エコツーリズム推進協議会登録ガイド更新条件の対象となっています。



研究者	研究対象魚種	トピック	研究期間
木村祐真 博士	タネギンボ	水上出漁	2011-2016 (5年)
門田 立 博士	サラサゴンベ	両方向性転換	2002-2009 (7年)
坂上 慎 博士	フタスジリュウキュウスズメダイ	両方向性転換 雌雄的性転換	2013-2019 (6年)
小出佑記 博士	クロハコフグ	ホヤ採餌 産卵移動	2016-2021 (5年)

すべて口永良部島の海でなければ研究できなかった
フィールド研究の減少傾向にある中、魚類生態学を代表する研究成果
4人は魚類学、水産学の最前線で活躍中



資料等 なし